

「乳腺線維腺腫、葉状腫瘍における背景浸潤細胞の比較」研究のお知らせと  
お願い

乳腺線維腺腫は頻度の高い乳腺の良性上皮間葉系腫瘍です。葉状腫瘍は線維腺腫よりは頻度が少ないですが、乳腺の代表的な上皮間葉系腫瘍で、両者はしばしば鑑別が問題となってきます。

線維腺腫は大きさによる弊害や、ご本人の希望などによって、切除されることがありますが、取りきることが出来れば、再発は殆ど無いおとなしい病変で、一般的には、手術をせず、経過観察のみ行うことが多い病変です。一方で、葉状腫瘍にはおとなしい性質のものから、病変の増大傾向が著しいもの、再発や転移を来す悪性度の高いものが含まれてくるため、特に生検（組織の一部を採取し、病理学的に調べる検査）において、両者を正しく鑑別することが、その後の治療を選択する上で重要です。

しかしながら、線維腺腫、葉状腫瘍には組織形態学的に類似した像を呈することがあり、生検による検査のみでは、両者の鑑別が困難で、病変全体を切除し、はじめて診断が決着するような例も一定数存在します。

このような背景から、私たちは線維腺腫と葉状腫瘍の切除組織を用いて、背景の細胞などを形態だけでなく、免疫組織化学という方法を用いて細分類し、両者間での背景細胞に違いを見出すことができれば、生検による鑑別の精度を向上することができるのではないかと考え、本研究を計画しました。

本研究の対象となるのは、2002年2月～2016年3月の間に防衛医科大学校病院乳腺外科において、乳腺線維腺腫ないしは葉状腫瘍の生検および外科的

切除が行われた患者さんで、切除標本の病理組織ブロックが当院検査部病理に保存されており、術後の経過などの臨床病理所見のデータ入手が可能な方を対象とします。線維腺腫、葉状腫瘍あわせて約 50 検体について検討を予定しています。

本検討では、免疫組織化学と呼ばれる手法を用いて、組織から作製した病理切片を用いて背景にみられる炎症細胞等の種類を詳細に調べ、両者間での出現炎症細胞の種類、数、分布などを比較検討致します。

研究期間は防衛医科大学校倫理委員会承認後から平成 30 年 3 月 31 日までを予定しています。

日常で診断に用いられたのちに当院検査部に保管されている、手術時の病理組織標本を用いますので、研究のため追加に検査を行ったり、新たな検体の採取を行うことはありません。また金銭的な負担が生じることもありません。

研究に協力いただいた方への直接の利益はありませんが、もし本研究を通して両病変の鑑別精度を向上させることができれば、同様の疾患に罹患された患者さんに対する経過観察や病変切除といった治療選択に関するご提案を、よりの確にできると考えられます。

本研究では、組織標本や診療情報などに関する個人情報には匿名化によって厳重に管理され、個人が特定されることはありません。公的な結果の公表においても個人が決して特定されないように留意いたします。

研究で使用した標本や診療情報につきましては、研究終了後 5 年後までは防

衛医科大学校病態病理学講座で保管し、その後破棄します。

2002年2月～2016年3月の期間に乳腺線維腺腫ないしは、葉状腫瘍の診断を受け、当院で手術を受けられた方で、ご自身の病理標本や診療情報を研究に用いないでほしいというご希望がございましたら、下記の連絡先までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。なお、ご自身の病理標本や診療情報の研究への使用を拒否されましても防衛医科大学校病院における診療には全く影響はなく、いかなる意味におきましても不利益となることはございません。

連絡先：〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校病態病理学講座

研究代表者 河野 貴子

電話 04-2995-1511 (内線 2278)

FAX: 04-2996-5193